

「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」

わたしたちに必要な糧を今日与えてください。 (マタイによる福音書 6章 11節)

わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。 (ルカによる福音書 11章 3節)

主の祈りの前半は神との関わりについて、後半は私たちの日常の生活に関わる祈りであります。父なる神様がどのような方であるかを知り、み国を求める者こそ、自分が何を求め、必要であるのかを知ります。

ここで「日用の」というのは「次の日」という意味もありますが、夕方から始まるユダヤにおいての今日は、私たちにとっては明日になります。ですから、朝から始まる生活にとっては「今日の」になります。また、「次の」、来るべき日のパンは、出エジプト記において、イスラエルの民に与えられたマナのように、目の前に備えられているのではなく、明日神様しか与えられないものであるのです。

マタイによる福音書では「今日」と記され、ルカによる福音書では、それが毎日毎日与えられることを求める祈りになっています。つまり、その日その日ごと、必要なものを祈ることが、許されているのです。

父なる神様は、私たちにあるべきものを知っておられ、喜んで与えてくださる方です。ここに、まず我らという言葉に注目したいです。私ではなく、我らというのは、私にも、あなたにも必要なものです。日ごと、神の家族皆が共に支え合いながら、共に求めるのです。

「糧」は「パン」です。もちろん、生きるためにパンは肉なる体を持っている私たちに必要な不可欠なものです。しかし、主イエスは言われました。「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる (マタイ 4:4)」。つまり、まず必要な糧は、みことば、霊的な食べ物であるということです。聖餐において与えられた命のパンのもとに、私たちに必要な衣・食・住、さらに家族、友人、人間相互間の愛、平和など、我らが生きるために必要なものが日ごとに与えられるのです。

神様は私たちが必要なものを求めるよう欲しておられる、そして、喜んで私たちに与えてくださる方であります。我らが必要以上のものを求め、他の人はどうであれ、私のみが足りればよいという祈りは、神のみ国を求める者にふさわしくない祈りです。

父なる神様のみ言葉に生きる者は、まず神の国と義を求めます。み言葉に従いつつ、その日その日、神様から与えられる恵みとパンによって、生かされているのです。そして、かの終末の日に向かって、日々新たにされていくのです。

*共に祈りましょう

- ・「二つのことをあなたに願います。わたしが死ぬまで、それを拒まないでください。むなしなもの、偽りの言葉を、わたしから遠ざけてください。貧しくもせず、金持ちにもせず、わたしのために定められたパンで、わたしを養ってください。飽き足りれば、裏切り、主など何者か、と言うおそれがあります。貧しければ、盗みを働き、わたしの神の御名を汚しかねません。(箴言 30 : 7~9)」
- ・私たちに命のパン、イエス・キリストを与えてくださった神様に感謝しましょう。
- ・今日、私たちに必要なものを共に祈り合いましょう。